

OR MANAGEMENT CLIP

病院経営にインパクトを与える 手術室運営の質とは

～求められる手術室稼働率の最適化～



株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
シニアマネジャー

湯原 淳平 先生

看護師、保健師、神戸市看護大学卒業、聖路加国際病院看護師、
病院職員秘書を経て、(株)グローバルヘルスコンサルティング・
ジャパン入社。社会保障制度全般解説、看護必要度分析、病床戦略
支援、地域包括ケア病院・回リハ病院運用支援などを得意とする。
日本経済新聞や週刊ダイヤモンドなどメディアの取材協力も多数。
経営省経営・財務マネジメント強化事業アドバイザー。

INTRODUCTION

病院経営が直面している最大の課題は、人口減少に伴う病床稼働率の低下です。特に地方ではその影響が顕著であり、経営環境の急激な変化に迅速に適応する必要があります。以前は手術室の運営改善が病院経営の中心的な課題でしたが、DPC(診断群分類包括評価)制度のもとでは、入院医療の包括部分を効率よく管理することが重要となり、現在では病院経営は「患者確保」が主要なテーマの一つとなってきています。

しかしながら、手術や加算などの出来高算定部分の管理も欠かせません。実際に、DPC収益構成において手術は約3割を占めており、手術の適切な管理は病院経営において不可欠な要素となっています。手術室の運用を最適化し、生産性を向上させ資源を有効活用することが、病院の経営基盤を強化し、患者確保を進めるための重要なカギとなるでしょう。

本記事では、医療経営コンサルタント湯原淳平先生へのインタビューを基に、手術室運営最適化や病院経営の課題解決について詳しく考察します。